

2010年6月16日

## 日本TI、超音波診断などに対応の医療用画像機器向けソフトウェア・ツールキットを発表

日本TI、医療用画像機器向けソフトウェア・ツールキットを発表  
超音波診断やOCT検査の画像処理アルゴリズム各種に対応

日本テキサス・インスツルメンツは本日、『医療用画像機器向けソフトウェア・ツールキット(STK)バージョン2』(以下、『STK 2.0』)を発表しました。『STK 2.0』はTIの『TMS320C64x+(TM)』DSP用に最適化された画像アルゴリズム群を多数とり揃えており、医療機器のOEM各社は『STK 2.0』を活用して製品開発期間を短縮することが可能です。アナログと組込みプロセッシングから成るTIの医療用画像機器向けポートフォリオをさらに充実させる最新版のツールキットには、超音波診断やOCT(光干渉断層法)検査などのリアルタイム医療用画像処理アプリケーションを実現する画像処理カーネル各種が追加されています。STKのダウンロードなど詳しくは<http://www.tij.co.jp/ultrasoundstk> をご参照ください。

新たに機能が強化された『STK 2.0』によって、TIのC64x+アーキテクチャの最大の特長である高効率な処理性能と消費電力を十分に活用し、超音波Bモード処理、3Dレンダリング、OCTのリアルタイム処理などを実現できます。例えば、新たに追加された3Dアフィン変換アルゴリズムは、回転、拡大縮小、移動といった画像変換に適用できます。これは、リアルタイムの3D画像を表示する産婦人科向け機器の小型化、針やカテーテルの正確な位置をガイドするアプリケーションの低コスト化などに有効です。OCT検査機器は眼科での臨床用途で使われてきましたが、循環器診療、癌の診断、外科やその他の専門領域でも使われ始めています。OCT向けのDSPアルゴリズムは、コンピュータを使用する現行システムと比較して、プログラマブルで、より低消費電力で、小型化を実現する組込み信号処理システムに最適なソリューションです。

GE ヘルスケアのプリンシパル・エンジニアである Erik N. Steen氏は次のように述べています。「TIの医療画像ソフトウェア・ツールキットにはとても満足しています。TIのソフトウェア・ツールキットは扱いやすく、高性能でモバイル型の超音波製品の開発に役立ちました。」

以上

=NIKKEI NET=